

山科妙見堂
やましなめうけんどう

青瀧山白河寺

〔東野村にあり、禪宗妙心寺に属す。本尊阿弥陀仏は慈覺の作、立像二尺余、後白河院の宸牌、同

帝の石塔あり。当寺初めは淨土宗、野口山別時寺と号す、中興梅天和尚〕

三宮明神社

〔同所にあり、祭神三座、葺不合尊、左、稻荷、右、八幡、此所の生土神とす〕

阿弥陀寺

〔三宮本地堂なり。本尊阿弥陀仏、脇士、毘沙門、不動。開祖は大僧都頼音坊、寛永年中の建立なり。後水

尾帝の勅願所なり〕

花山稻荷社

〔南花山にあり、世の人おほいしいなり大石稻荷と称す。近年再建あり〕

梅本寺

〔花山追分の南にあり。禪宗、曹洞。中興は加州金沢大乘寺四十一世祖伝和尚なり〕

本尊十一面觀音〔長一尺。脇士は愛染、不動。此本尊を笈摺の觀音と号する事は、花山帝の愛妃弘徽殿の女御空しくな
らせ給ふ御時、悲歎涕泣なをあまりあり、故に治世二年にして寛和二年六月廿一日、聖寿十九才にして帝位をおりさせ

給ひ、此花山寺に至り御鬢を剃除し給ひ、法諱を入覺と改め、花山法皇と称し奉る。其後熊野三所權現の靈夢を蒙り、畿内の近国にて靈仏の觀世音卅三所を選ませ、これを巡行し給ふ。是西國巡礼の始なり。其時自身笈仏を負せ給ふ事は、玉体疲れ給はんとて、当寺の始祖仏眼上人、笈摺の御衣に觀音の像を画かせ御肩にかけさせられめぐり給ふ。其笈摺の觀音を模して当寺の本尊とす、故に笈摺の觀音とぞなづけける】